

舌がんの病期

(T分類)

TX	原発腫瘍の評価が不可能
T0	原発腫瘍を認めない
Tis	上皮内がん
T1	最大径が 2cm 以下かつ深達度が 5mm 以下の腫瘍
T1b	充実成分の大きさが1cmを超え2cm以下
T1c	充実成分の大きさが2cmを超え3cm以下
T2	最大径が 2cm 以下かつ深達度が 5mm をこえる腫瘍、または最大径が 2cm をこえるが 4cm 以下でかつ深達度が 10mm 以下の腫瘍
T3	最大径が 2cm をこえるが 4cm 以下でかつ深達度が 10mm をこえる腫瘍、または最大径が 4cm をこえ、かつ深達度が 10mm 以下の腫瘍
T4a	(口腔) 最大径が 4cm をこえ、かつ深達度が 10mm をこえる腫瘍、または下顎もしくは上顎の 骨皮質を貫通するか上顎洞に浸潤する腫瘍、または顔面皮膚に浸潤する腫瘍*
T4b	(口唇および口腔) 咀嚼筋間隙、翼状突起、または頭蓋底に浸潤する腫瘍、または内頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍

【注】

* 歯肉を原発巣とし、骨および歯槽のみに表在性びらんが認められる症例はT4aとしない。

(N分類)

NX	領域リンパ節の評価が不可能
N0	領域リンパ節転移なし
N1	同側の単発性リンパ節転移で最大径が3cm以下かつ節外浸潤なし
N2	以下に示す転移
N2a	同側の単発リンパ節転移で最大径が3cmをこえるが6cm以下かつ節外浸潤なし
N2b	同側の多発性リンパ節転移で最大径が6cm以下かつ節外浸潤なし
N2c	両側または対側のリンパ節転移で最大径が6cm以下かつ節外浸潤なし
N3a	最大径が6cmをこえるリンパ節転移で節外浸潤なし
N3b	単発性または多発性リンパ節転移で臨床的節外浸潤*あり

【注】

*皮膚浸潤か、下層の筋肉もしくは隣接構造に強い固着や結合を示す軟部組織の浸潤がある場合、または神経浸潤の臨床的症狀がある場合は、臨床的節外浸潤として分類する。

正中リンパ節は同側リンパ節である。

(M分類)

M0	遠隔転移なし
M1	遠隔転移あり

(病期分類)

0期	Tis	N0	M0
I期	T1	N0	M0
II期	T2	N0	M0

Ⅲ期	T3	N0	M0
	T1, T2, T3	N1	M0
ⅣA期	T4a	N0, N1	M0
	T1, T2, T3, T4a	N2	M0
ⅣB期	Tに関係なく	N3	M0
	T4b	Nに関係なく	M0
ⅣC期	Tに関係なく	Nに関係なく	M1

[舌がんトップ](#) | [舌がんの基礎知識](#) | [検査と診断](#) | [舌がんの治療を決める因子](#)

[舌がんの種類](#) | [舌がんの病期](#) | [舌がんの治療](#)

東京医科大学病院

住所：〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1 TEL：03-3342-6111（代表）

Copyright ©Tokyo Medical University Hospital. All rights reserved.